



餌の餌の餌は何？ PART2:磯・外洋（印刷用）

■ 概要

食物連鎖（食べる-食べられる）関係を表現して生きものを描いた『食物連鎖カード』を、参加者に1枚ずつ配ります。参加者は自分のカードの絵をよく見ながら、他の参加者が持つカードとの「食べる-食べられる」の「つながり」を探します。同じ連鎖に属するカードを持った人を見つけ出せたら、グループごとに集まります。



◎実施場所：室内
◎所要時間：20～30分

■ 学べること

- 生きものは食物連鎖の関係でつながっていることを、視覚的にイメージします。
- すべての食物連鎖は、元をたどれば光合成をする生物に支えられていることに気づきます。
- 海産物を食べる人間は、陸上生物でありながら海の生態系の上位に位置する生物であることに気づき、自分自身の命もまた多くの海の生物に支えられていることを学びます。

■ 準備するもの

◆『食物連鎖カード』…「使用する教材」からダウンロード（参加者の人数分）。

*『食物連鎖カード』はこのプログラムからダウンロードできる「磯・外洋」のカード（食物連鎖5～8）だけでなく、『餌の餌の餌は何？ PART1:北の海』のカード（食物連鎖1～4）も合せて使うことができます。

◆『解説用カード』…「使用する教材」よりダウンロード

*各カードはA5版で出力してください。

*食物連鎖の枚数と参加者の数が合わない場合は、同じカードを複数使います。



■ 実施の仕方

1. 導入：『食物連鎖カード』を参加者に1枚ずつ配り、自分のカードだけをよくみてもらいます。

カードはよくシャッフルして、参加者に配ります。どんな生きものが描かれているか、背景はどんな環境か、メインの生物以外に生きものが描かれていないかなど、自分のカードの絵をよく見るようにうながします。





2. 導入：「同じ“つながり”の仲間を探す」というゲームのゴールを示します。

カードが4枚から5枚で1セットになる「つながり」を持っていることを説明し、「同じ“つながり”の仲間を探してグループをつくる」というゲームのゴールを示します。

中高校生や大人の参加者の場合は、見ることができるのは自分のカードだけで、他の参加者のカードは見ることをできないことを伝えます。参加者は自分のカードに何が描かれているかを言葉で伝え、他の参加者と情報交換しながら「つながり」を探していきます。

小学生の場合は、「自分のカードしかみられない」というルールをはずしてカードを見せ合いながら「つながり」を探したり、あらかじめ「人間、ウシ、草」のカードを例として示したり、「つながり」が「食物連鎖」の関係であることを例示してから仲間探しを行ったりしても良いでしょう。

3. 本体：他の参加者とコミュニケーションをとりながら「つながり」を探します。

最初は混沌としますが、だんだんと「つながり」が食物連鎖であることに気づいて、グループができ始めます。指導者は適宜、絵をよく見ることや他の人とたくさんコミュニケーションをとることなどを促したり、ヒントを出したりして、ゴールに向かうことを援助します。

4. まとめ：高次捕食者から食物連鎖の順番に並んで、「誰が誰を食べるか」を発表します。

グループごとに集まったら、カードを見せ合って、絵がつながるように順番に並びます。すべてのグループが並べたら、「誰が誰を食べるか」を発表します。発表は「〇〇は△△を食べます」と高次捕食者から順番に、カードを持っている本人が伝えます。

参加者が「描かれている生物が何かわからない」場合は、その生物について、指導者が解説を加えていきます。また、それぞれのカードにはさまざまな生物学的なトピックが描かれていますので、参加者の年齢や関心に合わせて解説をします。

＊参考資料：「食物連鎖カードの解説」

＊参考資料：「ファクトシート プラクトンⅠ」

5. まとめ：「つながり」が食物連鎖（食べる-食べられる）のつながりであったことを確認します。

参加者の年齢や、この活動の前後に行う一連のプログラム内容などに合わせて、適宜まとめの解説を行います。

◆ポイント！

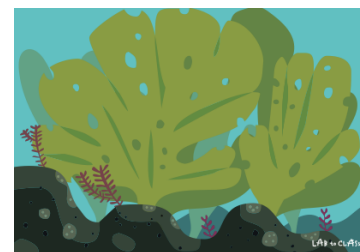
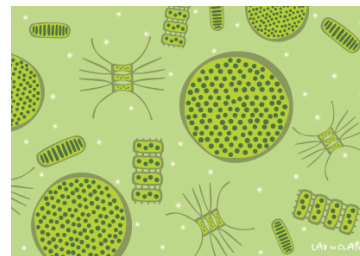
最初からカードを見せ合い、同じ生物が描かれているカードを見つけてグループを探していくと、低学年でも行えます。

◆ポイント！

高学年対象の場合は、カードに描かれている絵は人に見せず、言葉で探している生物の説明をして行いましょう。

◆ポイント！

食物連鎖を伝えてから活動を行う場合は、カードのなかには餌となる生物が描かれていないものがある（植物のカード）ことを伝えておきます。





例：

- ・すべての生きものは、何かを食べ、何かに食べられています。
- ・食物連鎖の視点は自然を見るうえでとても重要です。人間もまた、その「つながり」のなかにいます。

人間が海の生物を食べているカードを使用して解説しましょう。

- ・食物連鎖の始まりは太陽です。

「海藻や食物プランクトンは何も食べなくてもいいのでしょうか？」と、参加者に質問し意見を求めます。参加者の反応を見て「太陽のカード」を出し、海の植物も陸上の植物と同じように太陽の光で育つことを伝えます。



海の植物も陸上植物と同じく太陽の光が届かないと育たない！



人間も海の食物連鎖に支えられて生きています！！

